

Title	慶應義塾福沢研究センターシンポジウム： 東アジアの近代とアメリカ留学
Sub Title	
Author	西澤, 直子(Nishizawa, Naoko)
Publisher	慶應義塾福沢研究センター
Publication year	2017
Jtitle	近代日本研究 (Bulletin of modern Japanese studies). Vol.34, (2017.), p.469(2)- 470(1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	シンポジウム講演録：東アジアの近代とアメリカ留学：East Asian overseas students in the U. S. in the early modern era
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10005325-20170000-0469

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾福沢研究センターシンポジウム

東アジアの近代とアメリカ留学

東アジアにおける 19 世紀後半からの歴史を考えると、近代化を西洋化としてのみ捉えることは適切ではない。しかし、西洋文明との接触およびその受容が、東アジア各国の国家体制を変化させる大きな契機となり、多様な局面での文化的変化を生んだことは事実である。福沢諭吉の場合は留学ではないが、アメリカやヨーロッパを訪問し、西洋の文明を直接見聞したことが、その後の彼の思想や行動に大きな影響を与えた。

本シンポジウムでは、19 世紀後半に日本、韓国、中国からアメリカに留学した人物を取り上げ、具体的事例から、留学を通じての西洋文明の受容について考察した。彼らの動機や身分、何を学び、帰国後本国においていかなる役割を果たしたのか。日中韓の類似や相違だけでなく、留学先による差異や受け入れたアメリカ側の意図への検討も通じて、アメリカ留学が東アジアの近代史に果たした役割について考えた。

シンポジウムは、2017 年 10 月 20 日および 21 日の 2 日間にわたり、慶應義塾大学三田キャンパス内の東館ホールで開催された。

20 日は 15 時より、ファーナンダ・ペロン（Fernanda Helen Perrone）ラトガース大学図書館准教授が *Invisible Network: Japanese Students at Rutgers during the Early Meiji Period* 「目に見えないネットワーク：明治初年ラトガースにおける日本人留学生」と題した基調講演を行い、阿部珠理立教大学名誉教授がコメントを述べた。翌 21 日は 14 時より、高木不二大妻女子大学名誉教授、容應莚亜細亜大学経営学部教授、崔徳寿高麗大学校名誉教授による、日本、中国、韓国の事例報告を行った後、福沢研究セン

ター西沢によるコメント、さらに全体討論を行った。

このうち基調報告および日中韓の事例報告について、講演者・報告者に、当日配布した資料に加筆しまとめていただいたものを掲載する。またペローン氏の原稿は英文であるため、当日配布した要約（高木不二氏翻訳）を参考に添える。

（西沢直子）